【教育分野におけるパッタルン市への専門家派遣事業】

1．パッタルン市の教育システムと課題

2012 年 2 月 2 日（木）から 10 日（金）まで、タイ王国パッタルン市において、同市の要望に基づき、教育分野における専門家派遣事業を行った。タイでは義務教育が教育省系と内務省系（市立）の二本立ての教育システムとなっている。特に同市では、コーシン・パイサンシン市長の強いリーダーシップにより、児童生徒の学力向上を図るため、先進国、特に欧米諸国ではなく、同じアジアの日本の教育システムに対する興味関心が高い。このため、本事業が実現することとなり、香川県の高松大学にて教鞭を執っておられる高橋英弐氏を専門家として派遣することとなった。高橋氏は小学校で 40 年以上教員として児童を指導し、教頭・校長を務め上げた。現在は文部科学省の大学教育充実のための戦略的大学支援プログラムで選定された「教員養成コンソーシアム四国」高松大学サテライト事務局の教員補佐員として事業推進に取り組む傍ら、非常勤講師として生活科授業等も担当しており、教育分野での専門家を求めるパッタルン市に対して、ぜひ協力したいとの意向を示してくださった。

2．指導概要

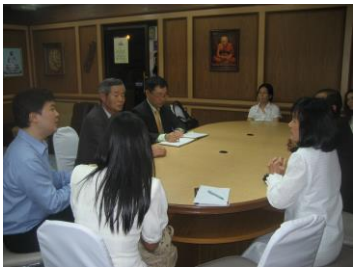
本事業初日の 2 月 2 日（木）は開講式が行われた。開講式にはパッタルン市役所関係者の他、一部の学校から教員および成績優秀な生徒が参加していたため、関係者挨拶などの式次終了後、質疑応答の時間が設けられた。下記は、質疑応答の主な内容である。個々の教員は同じアジアである日本の教育の現状に関心がある一方で、日々直面している学校教育現場の個別具体的な課題への対応について熱心に質疑を行った。特に不登校児童等の対応への関心が高く、教育現場が日本と類似の問題を抱えている様子が窺がえた。

・日本の教育システムについて
・日本の教育の実態について
・宗教と教育の関わりについて
・政策と教育の関連について
・外国語教育の開始時期について
・対応が困難な児童の扱いについて
・不登校児童および保健室登校の児童の対応について
・専門家の教育に関する理想について

2月3日（金）には、ワットニークロタラン小学校・幼稚園、テッサバーンバーンクーハーサワン小学校、テッサバーンチュンファー中学校を訪問・視察した。それぞれ視察後に質疑応答の時間も設けられた。

ワットニークロタラン小学校・幼稚園およびテッサバーンバーンクーハーサワン小学校はそれぞれベストプラクティスとして他県からの視察を受け入れるような手本事業を行っていたり、地域の人気学校であったりするが、テッサバーンチュンファー中学校については、同市唯一の中学校として6年前に開校したばかりで、教育システムの構築に苦慮してい

るようであった。特に、教員が指導熱心な一方で、学生たちの学習意欲はあまり高くないとの矛盾があり、カリキュラムの組立や授業内容に工夫が必要と見受けられた。



左から、それぞれワットニークロタラン小学校・幼稚園、テッサバーンバーンクーハーサワン小学校およびテッサバーンチュンファー中学校の視察または視察後の質疑・応答時の様子

2 月 6 日（月）から 10 日（金）まで、視察した教育現場の状況も踏まえ、専門家には講演を行っていただいた。パッタルン市側の事情により日程の変更もあったが、予定していた講義内容は無事終えることができた。

その上で、専門家は同市が目標としている児童生徒の学力向上には教師の質を改善する必要があると指摘された。現在、同市では児童生徒の理解不足や失敗はその児童生徒の責任であるとする考えが一般的であるが、専門家は、児童生徒の理解不足や失敗は教員の指導方法に起因するものであり、教員の質の向上が急務との考えを示した。このため、教員が他の教育事例の視察をしたり、指導方法の研究を行ったりする必要があると指導した。同時に、児童生徒の学習意欲、登校意欲を促進することが重要であると指摘した。

3. おわりに

本事業は、当初のパッタルン市の要望では外国語教育に関する指導を行うものであった。しかし、その後、同市とのやりとりにより、教育全般の指導に内容を切り替えて行われたものである。そもそもパッタルン市では、現在同市の学校教育システムのどこが悪いのか、何が足りないのかを把握できていない状態であり、とにかく児童生徒の学力を向上させたいという希望はあるものの、そのために何が必要かを把握できていなかった。いわゆる「わからないところがわからない」状態で、専門家が疑問に思う一部の点や、教育論的なことについても講義を行って欲しいという漠然とした要望については事前に確認できたものの、同市から個別具体的な要望や課題はほとんど提案されなかった。このため、専門家は個別具体的な案件に対する用意ができず、時間的な要因もあり、細部に踏み込んだ内容の指導を行うには限界があったようである。

制度や言語風習の異なる国際間の協力事業では時にこのような問題が生じることも避けられない。より効果的な指導を行うためには、専門家を派遣する自治体に対して、よりスムーズな情報提供が行われるよう、より一層の働きかけや、きめ細やかなコミュニケーションが必要であると感じた。こういった情報不足に伴う問題を補うため、本事業では、開

講式の翌 2 月 3 日（金）に、現地教育現場の視察を設け、専門家に教育現場を見ていただき、状況に応じて 6 日（月）からの講義の指導内容に変更を加えられる弾力的なスケジュールとするなどの対応を取ることとした。

今回は、最終的に、専門家は教員の研修について提案し、研修先についても相談に応じると伝えたものの、同市からは財政措置が困難であるとの回答があった。だが、教員は非常に指導熱心であり、日本の教育制度や生徒指導の良い点や、児童生徒の立場に立った教育の在り方に触れ、理解を深めるという点では一定の成果があったと思われる。さらに前述のような研修が実現すれば、この成果をより大きく広げていくことが期待できる。同市の求める児童生徒の学力向上のためにも、本事業の成果をパッタルン市の将来に役立てていただくことを願って止まない。

（タイ・パッタルン出張時における聞き取り等）

（浜松市派遣・伊藤所長補佐）